

平成22年 全国山火事予防運動



空 気が乾燥し一年で一番山火事の発生頻度が多い時期を迎え、「全国山火事予防運動」が展開されています。この運動は、山火事

予防意識の啓発を図るとともに、予防対策を強化し、森林の保全と地域の安全に資することを目的として、毎年この時期に実施されています。

昭和四四年にスタートした「全国山火事予防運動」は、毎年、この運動を推進するため、統一標語と山火事防止ポスターの公募・選考が行われ、本年は、標語が北海道羽幌町立焼尻中学校三年生の小田佑哉君の「消さないで 小さな命の 帰る場所」、ポスターが静岡県富士市立富士中学校一年生の軍地詩織さんの作品がそれぞれ選定されました。

冬から春にかけては、山では枯葉や枯草が多くなることに加え、空気の乾燥や季節風、フェーン現象などの影響で山火事発生の危険性が高くなっています。このため、四月にかけては最も山火事が発生しており、過去のデータからも予防運動を強化しなければならぬ時期です。山菜採りなど入林者の多くなる時期に当たることも発生件数増加の要因と考えられます。

予防運動としては、駅、市町村庁舎、学校、登山口等にポスター等を掲示したり、テレビ、ラジオ、新聞、インターネットで山火事予防を呼びかけたりして、入山者や地域住民等に対する山火事予防意識の高揚を図っています。

また、火災警報発令中などや火災が発生しやすい時期には、関係機関が協力して、住宅地などに近接する森林での重点的な森林パトロールを実施するなど森林保全管理体制の強化を図り、火災の未然防止、早期発見に努める取組も行なわれています。

消防機関等と森林所有者等がより一層の連携を図るとともに、初期消火を中心とする消防訓練、研修会、予防および消火資機材等の適切な点検、管理等を実施し、地域の実情に即して予防対策を計画的に講ずるよう努めています。

さらに、地域住民、森林所有者等による山火事予防組織の育成強化を図るとともに、これらの組織が婦人（女性）防火クラブ等のいわゆる民間防火組織と連携を図り、予防活動を行うなどの活動が一齐に展開されています。

●林野火災の発生状況（平成16年～平成20年）

林野火災は過去5ヶ年平均で年間約2千件発生し、焼損面積は約1千ha、損害額は約5億3千万円となっている。

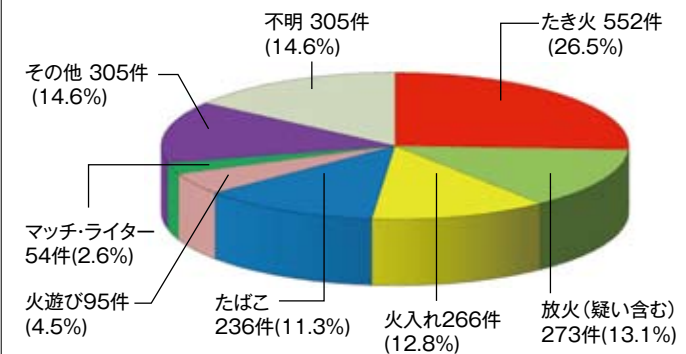
区分/年次	H16	H17	H18	H19	H20	平均
出火件数（件）	2,592	2,215	1,576	2,157	1,891	2,086
焼損面積（ha）	1,568	1,116	829	717	839	1,014
損害額（百万円）	809	868	134	237	606	531

資料：消防白書より



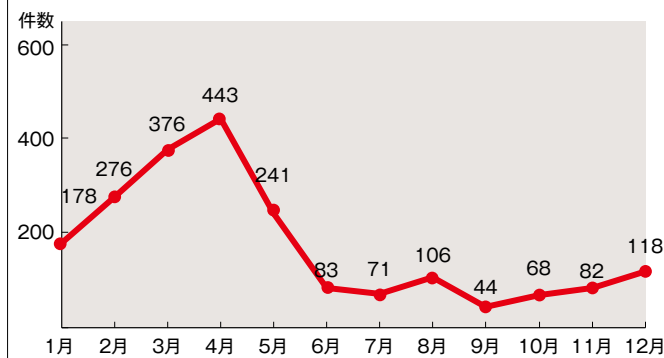
宮城県角田市・山元町 =写真提供・宮城県=

●原因別出火件数（平成16年～平成20年の平均）



資料：消防白書より

●月別発生件数（平成16年～平成20年の平均）



資料：消防白書より



宮城県角田市・山元町 =写真提供・宮城県=

- 林野庁では、山火事防止に効果的と考えられる事項として、次の六点をとくに揚げて注意を喚起しています。
- ① 枯れ草などのある火災が起りやすい場所では、たき火をしないこと、
 - ② たき火など火気の使用中はその場を離れず、使用後は完全に消化すること、
 - ③ 強風時及び乾燥時には、たき火、火入れをしないこと、
 - ④ 火入れを行う際、許可を必ず受けること、
 - ⑤ たばこは指定された場所で喫煙し、吸がらは必ず消すとともに、投げ捨てないこと、
 - ⑥ 火遊びはしないこと。
- 山火事は、いったん発生するとその消火は容易ではありません。また、一瞬にして貴重な森林を消失するだけでなく、その回復には長い年月と多くの労力を要することとなります。山火事の予防について、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。